

(1) 附属図書館

① 附属図書館

ア 設置の趣旨（目的）及び組織

附属図書館は、教育及び研究活動に資するため、図書・雑誌・その他の資料を一元的に収集・整理・保存し、本学の学生及び職員の利用に供するとともに、学生の主体的・能動的な学びのための環境の整備と学修支援の実施を目的として設置されている。その管理運営は附属図書館長が行い、事務は学術情報課学術情報チーム（情報管理担当、情報サービス担当）が担当している。

イ 運営・活動の状況

平成27年度に実施した主な事項（企画）は以下のとおりである。なお、平成27年度の入館者総数は10,364人、開館日数は351日であった。

i) 基本学術研究図書・学習用図書の収集・保存

全学の教員に対して推薦依頼を行い、それに基づき基本学術研究図書、学習用図書を収集した。また、シラバス掲載図書の網羅的収集の継続とともに、チーム内でも学習用図書、参考図書、寄贈資料、学生リクエスト図書等の選定を行った。小学校教科書の改訂年であったため、全ての小学校教科書と上越地域採用教科書準拠の教師用指導書を購入した。これらの収集と雑誌製本により平成27年度は4,997冊を受け入れた。

なお、電子ジャーナル・データベースに関するアンケート調査を実施し、予算減に対応するため、平成28年度契約金額の約10.7%減を決定した。

ii) ガイダンス等の学修支援の実施

新入生向け館内案内ツアー、電子ジャーナルやデータベースの講習会のほか、年間を通して教員の希望による個別のガイダンスを実施した。また、「卒論・修論作成のための日本語文献の探し方」講習会、「レポート・論文作成のマナーと文献の利用方法」講習会を開催した。

iii) 図書館利用を促進する取組

学生の参加による選書ツアーを実施し66冊の図書を購入した。教育実習に役立つ図書を現職教員である附属学校教員から推薦してもらい大学基金により購入した。女性教育会館蔵書等の展示・貸出ほか、定期的にテーマ別展示を行った。年間を通して、教員執筆による「『書物』のリレー・エッセイ」、「図書館ニュース」の発行及びSNS等による情報発信に努めた。

iv) 学修環境の改善充実

- ・ 情報交流ゾーンを廊下側へ移設し、什器の更新、ホワイトボードの増設、固定式プロジェクター・ホワイトボード兼用スクリーンの設置、無線映像投影機器等の整備を実施した。
- ・ 学生ワークショップでの意見を踏まえ、リフレッシュゾーンにカフェ風の机と窓側席を整備し、カーペットを張り替えた。
- ・ フリースペースとしている1階ライブラリーホールの什器を全て可動式に交換し、回転黒板を整備した。
- ・ マルチメディアコーナーを拡充し、一部カーペットを張り替えた。

v) 新潟県立看護大学図書館との相互協力

前年度同様、文献複写料金と貸出条件を学内者扱いとするとともに、6～7月、12月に蔵書交換

会を実施し、相互に蔵書の展示・貸出を行った。

ウ 優れた点及び今後の検討課題等

i) 図書館資料購入費

資料購入費が逼迫する中で、引き続き教育・研究に必要な資料購入予算の安定的な確保に努めるとともに、電子ジャーナル等の価格上昇に対応するため、適切な選定及び購入方法について検討する必要がある。

ii) 学修支援・図書館サービスの充実

今年度整備を行った、2階情報交流ゾーン及び1階ライブラリホールを、平成28年度から授業を実施できるスペースとして提供することとした。特に情報交流ゾーンは、図書館ゲート内であり、図書館の資料を活用した授業の実施も可能なスペースとなっている。

今年度新規に実践的な活用を想定した電子黒板講習会を実施するとともに、学習指導要領の探し方のガイドを作成し、学生ニーズに即した学修支援の実施を試みた。読書喚起や図書館の活性化のためにビブリオバトルを開催した。また、長岡技術科学大学附属図書館と蔵書交換会を試行した。

今後も学生・教職員のニーズを把握しつつ、講習会の実施時期や方法、内容等を検討し、見直していく必要があり、情報メディア教育支援センターとの連携による学修支援の可能性をさらに追求していく必要がある。

iii) 地域社会への貢献

学外者の平成27年度利用登録者総数は545人で、2,580冊が貸し出された。10月には学外者対象の館内案内ツアーを実施した。学校教育実践研究センター開催の「子どもの本を楽しみ、子どもの本について考えるセミナー」、「子どもの本を楽しむ」セミナーに合わせて、紹介された本の展示とSNSによる紹介を実施した。

iv) 資料の配置、保存、収納

当館の資料収容力は約30万冊であり、既に収容能力を超えている。重複資料等の処分を継続するとともに、附属図書館増改修に合わせた書庫の増設により、資料の保存スペースを確保する必要がある。

v) 施設・設備の整備

2階情報交流ゾーンを見通しのよい廊下側へ移設し、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業も実施することで、学生が自ら学ぶだけではなく、他の学生にも自ら学ぶ姿を発信できるようになった。

また、附属図書館増改修に向けたプラン等の参考とするために、学生参加のワークショップ「これからの図書館をいっしょに考えよう！」を開催した。

② 運営委員会

ア 設置の趣旨（目的）及び組織

i) 組織設置の趣旨（目的）

附属図書館運営委員会は、附属図書館の運営に関する事項を審議するために置かれている。

ii) 組織の構成及び構成員等

附属図書館運営委員会は、附属図書館長、各専攻長、学術情報課長及び平成27年度は、学長指名1人を加え計6人により構成され、附属図書館長が委員長となる。

イ 運営・活動の状況

i) 委員会等の開催状況

平成27年度は、平成27年5月28日（木）、8月6日（木）～8月18日（火）（書面審議）、9月16日（水）、12月17日（木）～12月18日（金）（書面審議）、及び平成28年2月2日（火）の5回開催した。なお、第3回以降は、タブレット端末を利用したペーパーレス会議を行った。

ii) 審議された主な事項

- ・ 平成27年度附属図書館業務計画
- ・ 平成27年度附属図書館経費
- ・ 平成27事業年度年度計画に関わる実施計画について
- ・ 2016年電子ジャーナル等・外国雑誌の購入について
- ・ 平成26年度蔵書点検所在不明図書調査検索結果等
- ・ 平成27年度蔵書点検結果等

iii) 重点的に取組んだ課題や改善事項及び前年度の検討課題への取組状況等
増改修フロアプラン再構成案の検討等に取り組み、年度計画の達成に努めた。